

—— 開講にあたって ——



パブロ・ピカソに「芸術はそれ自体、発展することはない。思想が変り、それとともに表現形式が変わるのである」という言葉があります。世の中は芸術を中心に回っているわけではないかもしれませんが、地球温暖化や人口爆発などの問題を鑑みるに、進歩史観を盲信する時代はもはや過ぎ去ったとは言えるでしょう。ローマクラブは、すでに1970年代の初頭に「成長の限界」を主張していますし、環境汚染や原発事故、繰り返される経済危機、戦争・紛争、サイバーテロ、インターネットを介したプライバシー侵害など、時代とともに悪化するものごとも多くあります。科学技術の進歩がそのまま人間の進歩に重ならないことは、世の中で繰り返し主張されているところで

すが、科学技術の進歩をどう制御していけばよいかについては、実効性の高い議論がなされているとはいえないのではないのでしょうか。

本学が対象とする学問分野には広大なスペクトルがあります。今回の東京大学公開講座では、その広がり のさまざまな領域を代表する専門家に登壇いただき、それぞれの目で見えた「人間の進歩」について語っていただく中で、専門分野の違いや考え方の違いによって人類の現状と未来がどのように違って見えているのか、そこにどういう問題があるのか、明らかにすることを試みます。その上で、人間にとって真の進歩とは何か、それはどうやったら達成できるのかを論じてみたいと思います。ここでは、文系と理系、実学と虚学、基礎科学と応用科学など、目にとまりやすい対比だけではなく、より深い思想や実社会での実践に根ざした議論がなされるようにしたいと考え、選りすぐりの登壇者を用意させていただきました。各回で、技術、医療、経済といちおうテーマを分けてはいますが、場合によっては、それぞれが背負っている分野の利害を超えて、登壇者個人の本音を語り合っていたいただくのも良いかもしれません。

平成26年3月

第119回東京大学公開講座企画委員会

委員長 **坂井修一**

(東京大学大学院情報理工学系研究科長)

講師講義内容の概要

4月26日(土) 科学技術は制御可能か？

13:00～13:50

進歩か進化か：科学・技術・人文・社会科学に於ける発展とは？

法学政治学研究所・教授 **太田勝造**



科学技術の進歩を制御する方策としてまず思い付くものは法規整でしょう。でも、法にそれはどこまで可能なのでしょうか？ 法律家が科学技術を誤解しているかもしれませんし、科学技術者が法を誤解しているかもしれません。いずれの場合も制御はうまく行かないでしょう。そもそも科学・技術・人文・社会科学などの学問ないし知的営為における進歩とは何なののでしょうか？ 進化とはどう異なるのでしょうか？ それらと、真善美そして人間の幸福とはどのように関連するのでしょうか？ 参加者の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

14:10～15:00

沿岸域の防災・環境と向き合う人間の進歩

新領域創成科学研究科・教授 **佐々木淳**



沿岸域は津波や高潮といった沿岸災害が起こるたびに様々な防災対策が検討実施されてきました。また、沿岸域の開発に伴う水質や生態系の劣化といった問題が顕在化し、改善に向けた多くの取り組みがなされてきました。このような沿岸域の防災や環境の課題に人間はどのように向き合ってきたか、その取り組みは進歩しているのか、といったことを最新の知見を交えながら考えたいと思います。

15:20～16:10

複雑巨大システムの安全をどう確保したらよいか

工学系研究科・教授 **古田一雄**



9.11同時多発テロ、リーマンショック、東日本大震災などを経験し、社会が直面するさまざまな脅威に関心が高まっています。本講義では、複雑巨大システムの安全を確保する方法についての基本的な考え方を紹介します。

16:20～17:10

総括討議

理学系研究科・教授／総括討議司会 **鍵 裕之**

太田勝造／佐々木淳／古田一雄



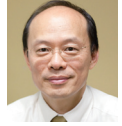
5月24日(土) 身体とこころ

13:00～13:50

遺伝子から考える人類の進歩

医学系研究科・教授 徳永勝士

人類が自ら引き起こす環境や社会の変容が加速しているのと対照的に、遺伝子は多くの世代を経て徐々にしか変化できません。食料生産革命を契機として生じた都市化・文明化などの変化に追いつけない私達の遺伝子は、近年急速に増えてきた糖尿病、肥満などのありふれた病気の要因になっています。これらの遺伝的要因は将来の世代にも伝えられることから、これらを解明し、うまく対処する智恵を得ることが求められています。



14:10～15:00

ヒト進化から考える人間の進歩

理学系研究科・准教授 近藤 修

ヒトが共通祖先である類人猿の仲間から分岐して、「人間」となるまで、およそ数百万年の時間がかかっています。しかし、そのほとんどの期間のヒト進化は、一生物種として「偶然」に支配され、「進歩」とはいえそうもないものです。「人間の進歩」と呼べそうなヒト進化の証拠はどこにあるのでしょうか？考えてみたいと思います。



15:20～16:10

発達心理学から見た人間の進歩—人の子育ては進歩しているか？—

教育学研究科・教授 遠藤利彦

人の子育ては進歩しているか。結論から言えば、おそらくは否と答えざるを得ないだろう。確かに、近年の子どもの発達をめぐる学知の進展やその実践的応用には瞠目すべきものがある。しかし、現今の子どもを取り巻く環境は、当の子どもにとって必ずしも生きやすく育ちやすいものではないのかも知れない。今回は「ヒト」本来の子育てとはいかなるものであったかを再確認した上で、現在の子育てに潜む危うさについて考究してみたい。

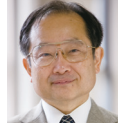


16:20～17:10

総括討議

医学系研究科・教授／総括討議司会 遠山千春

徳永勝士／近藤 修／遠藤利彦



5月31日(土) 経済の発展は人類を幸福にしたか？

13:00～13:50

現代社会に生きる人間の生態

医学系研究科・准教授 梅崎昌裕

産業革命以降の近代化によって、人類は繁栄の時を迎えています。一方で、少子・高齢化、肥満・生活習慣病の増加、格差の拡大、失業、人間関係の希薄化など、ほかの動物にはない問題を抱えるようになりました。本講義では、講師が研究してきたパプアニューギニアなど近代化の影響の比較的小さい社会と、日本など高度に近代化した社会を対比させることで、人類が近代化によって得たものと失ったものを整理したいと思います。



14:10～15:00

人間は経済危機を制御できるか？

経済学研究科・教授 柴田徳太郎

世界経済危機発生前のバブル期に「激しい景気変動は克服された」という楽観論が流布しました。過去の経済危機から学び、IT技術も発達したので「人類は経済危機を克服しよう」と人々は考えたのです。だが、こうした期待は裏切られました。なぜでしょうか。本講義では、過去の経済危機の経験から人類は多くを学び、危機対策に成功を収めてきましたが、他方で、そうした対策が新たな危機の源泉となるという問題について論じます。



15:20～16:10

経済学の『進歩』と経済危機

法学政治学研究科・教授 飯田敬輔

人間の幸福とは何でしょうか。それは経済発展と関係しているのでしょうか。最貧国の状況を見れば、経済発展の必要性は論をまたないように思われます。しかし、経済が高度に発達した先進国でも不幸が発生することは今回の世界金融危機で露呈した通りです。本講義では、人文社会科学の中で唯一「進歩」を意識的に追求している経済学を材料に、学の「進歩」が幸福に結びつくためには、さまざまな条件が整わなければならないことを明らかにしたいと思います。



16:20～17:10

総括討議

法学政治学研究科・教授／総括討議司会 寺谷広司

梅崎昌裕／柴田徳太郎／飯田敬輔

